地域·在宅看護論Ⅱ実習 3年後期~4年前期 90時間 (2単位)

1) 実習目的

保健・医療・福祉の地域・在宅ケアにおける看護の果たす役割を理解し、地域で暮らす対象者の健康問題や生活課題をふまえた訪問看護活動の実際を学ぶ。

2) 実習目標

- (1) 在宅で生活しながら療養する対象者とその家族を理解する。
- (2) 生活の場における看護の特徴をふまえ、対象に必要な援助が実践できる。
- (3) 地域・在宅ケアにおける多職種の連携・協働の実際を理解する。
- (4) 対象の自立(自律)とQOL(生活の質)向上にむけた看護の役割を理解する。

3) 実習目標・学習の視点

実習目標	学習項目	学習の視点	備考
1. 在宅で生活をし	①対象者の生活の理解	・対象者と家族の発達段階	事前学習
ながら療養する対	②対象者の健康状態と	・地域での暮らし・生活上の価値観	同行訪問
象者とその家族を	生活への影響の理解	・習慣・役割・キーパーソン	カンファレンス
理解する。	③コミュニケーション	・住居環境	在宅1
	を通して対象者の療養	・コミュニケーション方法	在宅2
	生活に対する思いや願い	・現在の健康状態と生活への影響	在宅3
	を知る	・生活上の困難感・望み・願い	在宅4
		・現在の健康状態、継続している治療、医療処置	
		・セルフケア能力(ADL/IADL)	
		・家族の介護力、介護負担状況、介護者の思い	
		・社会資源の内容、種類	
		・対象者の社会資源の活用状況	
2. 生活の場にお	①生活の場における在宅	顕在的・潜在的看護上の問題	同行訪問
ける看護の特徴を	看護の展開の特徴を理解	在宅看護過程の特徴	カンファレンス
ふまえ、対象に必	②対象に実践されてい	在宅看護のアセスメントの視点	在宅5
要な看護が実践で	る看護の必要性につい	訪問看護師のコミュニケ―ション方法の実際、意	在宅6
きる。	て理解	思決定を尊重した姿勢・態度、関わり方	在宅9
	③受け持ち利用者の看	生活の場における援助の工夫	
	護展開	訪問時の状況による療養者および家族への対応	
	④生活の場における援	家族アセスメントをふまえた家族支援	
	助の工夫	在宅でのリスクマネジメントの実際	
		療養生活上の安全の確保	

3. 地域ケア(地域	①在宅療養生活を支え	他機関、多職種との連携の取り方、方法	事前学習
ケアシステム)にお	る社会資源の役割を理	多職種連携の場の参加	同行訪問
ける多職種の連携	解	サービス担当者会議等	カンファレンス
・協働の実際を(に	②地域・在宅ケアにお	社会資源の内容、必要性、活用方法	
ついて)理解する。	ける他職種との連携・	他職種との連携の取り方	在宅7
	協働の実際	関係機関との連携	在宅8
	③暮らしに密着した継	地域との連携・協働、職業的責任	在宅9
	続的な生活支援の必要	信頼関係構築のための関係性づくり	
	性	訪問看護ステーション及び病院 施設内看護の違い	
4. 対象の自立(①訪問看護活動の実際	訪問看護の活動内容・機能	事前学習
自律)とQOL(生	を通して、訪問看護師	生活の場における継続看護の特徴	同行訪問
活の質)向上にむ	の役割を理解すること	自立支援とQOLの向上	カンファレンス
けた看護の役割	ができる	意思決定支援・権利擁護	在宅7
を理解する。	②地域・在宅ケアにお		在宅8
	ける対象の自立支援の		在宅9
	ための看護の役割を考		実習総括
	える		
	④対象の自立(自律)		
	とそのQOL向上にむけた		
	在宅看護の役割を考察		

備考

実習時間 9:00~16:45 *昼休憩1時間含む

参考例) 午前 9:00~12:00 (3 時間/4 時間カウント)

昼食 12:00~13:00 (1 時間)

午後 13:00~16:45(3 時間 45 分/5 時間カウント)

基本形態 am9:00~12:00 (*4 時間カウント) pm13:00~16:45(*5 時間カウント)

4) 実習展開例)

実習日	(カウン	実習内容	実習記録
	ト時間)		
1月目	5 時間	学内 事前学習内容、基礎知識の確認	事前学習内容の追記
		施設オリエンテーション→現地確認	受け持ち利用者情報整理
		訪問看護ステーション設置主体、理念	
		受け持ち利用者の決定	
		訪問看護の目的、必要な基礎情報の抽出	
2 日目	9 時間	同行訪問(受け持ち利用者含む)	受け持ち訪問看護記録
			医療処置を含む日常生活援助の実
			際
3 日目	9 時間	同行訪問	訪問看護記録
			対象の全体像の整理
4 日目	9 時間	同行訪問	看護上の問題と必要な看護の方向
			性
5 日目	5時間	*半日形態 同行訪問 各事業所の訪問計	多職種連携の場の理解
		画に準じる	
6 月目	9 時間	同行訪問	援助計画の検討
7 日目	9 時間	同行訪問 *5~7日目で中間カンファレンス	援助計画の追加、看護の実践
8 目目	9 時間	同行訪問	看護の実践・評価
			援助計画の修正・追加
9 日目	4時間	*半日形態 同行訪問 各事業所の訪問	多職種連携の場の理解
		計画に準じる	
10 日目	9 時間	同行訪問	看護の実践・評価・修正日常生活援
			助の実際
11 月目	9 時間	同行訪問 最終臨地カンファレンス	対象の今後の課題
12 日目	4時間	*学内まとめ 学内カンファレンス→臨地記録	学びの共有
		提出	自己の課題

- ※受け持ち利用者は、週に複数回の訪問看護があり、学生の訪問を了解していただいた方を選定する。実習期間中に3回以上訪問できることが望ましい。
- ※受け持ち以外の訪問看護実習は、訪問は1日2件を目安とし、学生の訪問を了解していただいた 方を適宜選定する。
- ※対象者の訪問看護計画に沿って実施するため、訪問日程、援助内容は学生により異なる。
- ※他機関、多施設との連携・協働場面があれば同席、見学させていただく

(退院前訪問、かかりつけ医の受診、居宅介護支援事業所、サービス担当者会議等)

- 5) 事前学習 (実習開始までに必要な課題提出物)
 - ①訪問看護における介護保険と医療保険の使い分け
 - ②訪問看護ステーションの概要(法的根拠、設置運営基準含む)
 - ③在宅看護過程の特徴(講義・演習ワーク資料の追加修正) ※枚数自由。提出期限は別途ガイダンスあり。科目担当教員へ提出。

6) 学内実習展開

ねらい 訪問看護ステーションでの訪問看護活動を通し、在宅療養者および家族に対する看護について学びを共有し、在宅看護の特徴をまとめる。

- 目標 ①在宅看護の特徴について、各自の体験(事例とそれぞれの看護の展開)と学び を発表することができる。
 - ②抽出された特徴等を関連させ在宅看護の特徴をまとめる。
 - ③共有された学びを通し、自己の実習を振り返り、自己の課題を明記する。

学内実習(実習1日目) 11時~16時30分5時間カウント

時間	スケジュール
(9:20~10:50)	事前実習準備
11 時~12 時 30 分	施設オリエンテーション 同行訪問マナー
13 時 20 分~	受け持ち利用者基礎情報 課題整理
14 時 50 分	
15 時~16 時 30 分	施設毎現地確認 *電動自転車搬入 ご挨拶

学内実習 (実習 12 日目) 13 時 20 分~16 時 30 分 (2 コマ/4 時間カウント)

時間	スケジュール
13:20~14:00	学びの共有 ラベルワークによる「在宅看護の特徴」のまとめ
14:00~15:00	全体カンファレンス 発表とまとめ
	(リスクマネジメントの視点、看護の展開、在宅看護の特徴など)
15:00~16:30	記録の整理 実習評価と自己の課題の確認 現地での記録提出
	*16 時 30 分頃到着を見越して学校を出る。

-実習上の注意点-

- ①訪問に適した身だしなみを整えること。服装は、白ポロシャツ・派手でない色または淡い色のジャージ・スニーカー。靴下は、白。髪は、束ねまとめる。派手な化粧はしない。マニキュアやアクセサリーは禁止。名札は持参する。
- ②訪問に持参な物品(必要時学校指定のディスポ手袋、ディスポエプロン等。手拭きタオル、靴下の替え。雨天用防寒具等)を収める訪問用小袋。(リュックや通学用のカバンは使用しない)
- ③訪問看護ステーション毎に移動手段や準備物品が異なるためオリエンテーション時に確認し、各自準備する。

- ④訪問には、実習記録を持ちださない。
- ⑤事業所の書類等を預かり訪問に出る場合は保管状況に細心の注意を払うこと。
- ⑥学校の自転車および電動自転車の借用時は、所定の手続きをし、各自が責任を持って点検(タイヤの空気圧など)、必要な整備を行い、返却すること。返却時は担当教員のチェックを受ける。
- ⑦雨天時は、雨合羽が必要となる。学校用を借用する場合は、所定の手続きを行うこと。 最終返却前には水洗いし、 乾燥させておくこと。

実習記録(学校指定用紙)及びその他の必要な記録

- ② 実習計画用紙:一日一日の学習目標、学びを記載する。
- ②在宅1一対象を理解するために必要な知識の抽出、整理
- ③在宅2-受け持ち療養者訪問記録(1)(2)(看護計画立案までの訪問記録)
- ④在宅3-情報の整理・解釈
- ⑤在宅4-全体像(中間カンファレンス資料)
- ⑥在宅5-看護計画(中間カンファレンス資料)
- ⑦在宅6-実施記録
- ⑧在宅7-多職種連携
- ⑨在宅8-総括(最終カンファレンス資料)
- ⑩在宅9-同行訪問見学記録
- ⑪学内実習 総括課題ワーク資料
- 迎事前学習資料(事前学習課題)
- ⑤地域·在宅看護論Ⅱ実習評価表

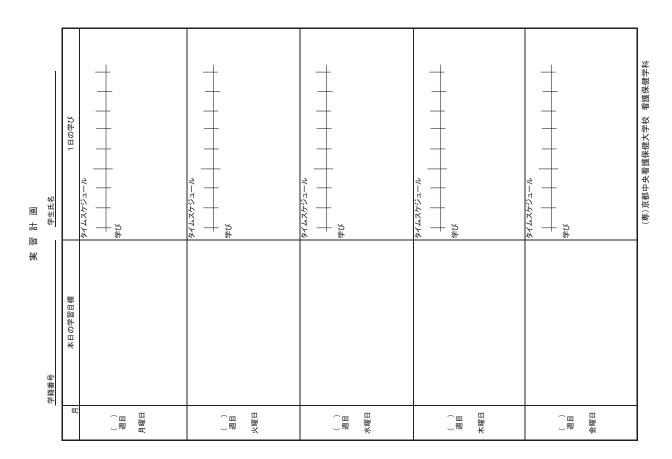
実習記録の提出

- ・実習記録は、所定の記録用紙を用いる(自己学習資料は別途)
- ・日々の記録物は、毎朝ファイリングし、訪問看護ステーションの指導者に提出する。
- ・実習最終日は、①~⑫実習記録用紙の順にファイリングし、各自訪問看護ステーションに提出する。 ⑬については実習最終日 朝指定時間に提出する。
- ・事前学習も含め、すべての記録物が指定期間に提出がなければ評価対象外となり、実習成績および単位 認定に影響する。
- 「安全に関する体験報告書」については、実習中発生後速やかに報告し、担当教員に提出する。

実習評価

- 1) 実習評価はルーブリックの評価基準(尺度)に基づいて評価する。
- 2) 他者評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。
- 3) 自己評価は6日目もしくは7日目(中間カンファレンス日)と最終日に学生自身が行い、ボールペンで記載する。

発達日・衛前学習 ※(使14年5) 前間対象に必要な観音点と指形(指数・必要性も含む)についても書く。 事務学習 事務学習 (事) 元 4 (本) 元 4

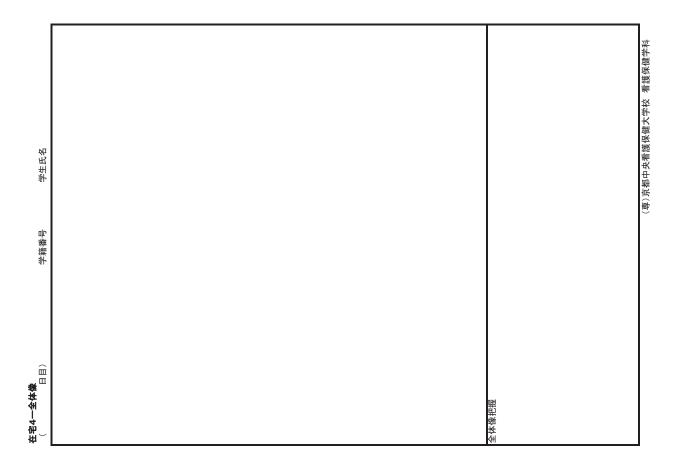


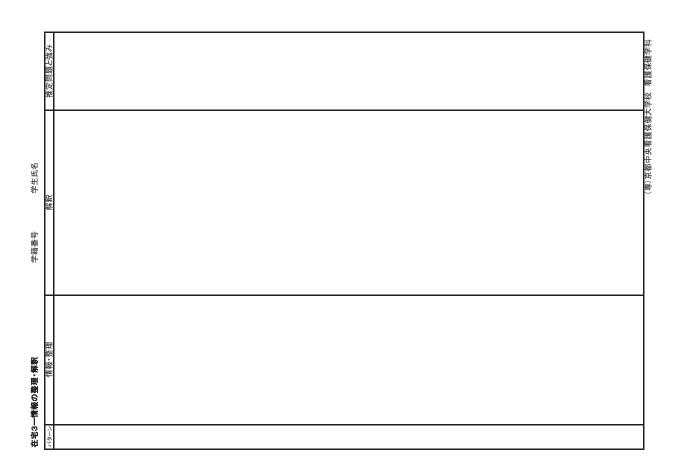
(專)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

在宅2一受け特ち対象訪問記錄(2)	受け存ち対象者訪問(2回目訪問時) 訪問時の状況				学びや勝穂		<u>受け特ち対象者訪問(3回目訪問時)</u> 訪問時の状況	学びや感熱
学生氏名	*社会資源活用状況							
中華報本	*	*地域環境の特徴				訪問所要時間()		
在宅2一受け持ち療養者訪問記録(1)	*訪問看護の開始時期と目的	*療養環境の特徴	現在の看護上の問題点	主な医療処置・日常生活援助内容	*主介護者() 現在の介護状況	受け特ち対象者訪問(初回訪問時). 訪問時の状況		学びや感想

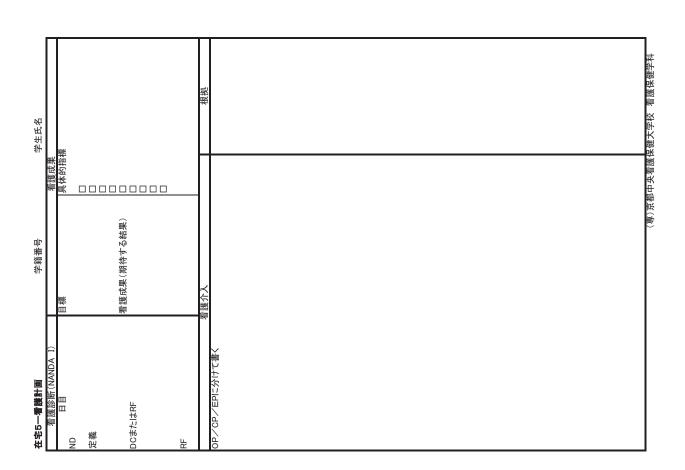
学生氏名

学籍番号





在宅(在宅6一実施記録	学生番号	学生氏名	
QN				
DC#!	DCまたはRF			
H.				
日日	実施	結果 S:対象の反応、 O:観察項目に基づくデータ	評価 看護成果・成果指標に対して評価	今後の計画
			华冠十世 口器 出土 七年 十/年/	手無伊爾哥手



月日()8	
n ・どのような趣旨、目的をもった事象か ・連集する聯維 権勢 権闘「つ Y	体験を通して考えたこと、学んだこと
とこうに	

療養上の継続課題

事び

学生氏名

学籍番号

対象のプロフィール

在宅8一総括

看護診断(看護上の問題) ND DOまたはRF RF

看護の実践・結果・評価

-58	_
-----	---